

はじめに

現在、身体障害、知的障害、精神障害の3区分でわが国の障害者数の概数を調べますと、身体障害者366万1千人、知的障害者54万7千人、精神障害者320万1千人となっています。人口の約6%の方に障がいがあると報告されています（障害者白書 平成25年度版 内閣府）。今後さらに高齢化が進むと障がいのある方も増加すると思われます。

さて、障がいのある方は、歯やお口の問題でお困りではないでしょうか。例えば、手が不自由で上手に歯磨きができない、足が不自由で歯科を受診できない。など身体的理由でむし歯や歯周病になってしまう方も多いようです。また、知的障害のためになぜ歯を磨かないといけないか理解ができない方や、発達障害のためにコミュニケーションに問題があり、何をされるか不安で歯科を受診や治療が苦手な方も多いようです。さらに、精神障害があり、意欲がわからず歯科を受診する機会を逃してしまうケースも多いようです。

また、食べるのに障がいがある方も多いようです。例えば脳性麻痺の方は飲み込みが上手くいかず、むせ易かったりしますし、ダウン症の方は、舌が出て丸飲みしていたりする事が多いようです。

近年、歯やお口の健康は全身の健康につながる事が分かってきました。障がいがあっても、日頃からお口のケアを行い、定期的に歯科を受診することにより、健常者と同様に、歯やお口の健康を維持し、おいしいものを良く咬んで健康で楽しい人生を送っている方も多くなってきました。

この本は、障がいのある方の歯とお口の健康を支援するために、1) 歯やお口の病気について、2) 障害別に歯の病気の特徴とその対応法や実際の治療例について、3) 治療後の定期管理の重要性について、5) お口のケアの仕方について、6) 食べる機能の障がいや摂食指導について、分かりやすく書きました。

障がいのある方ご本人やご家族、支援する介護者・施設職員・特別支援学校職員などの方々がガイドブックとして、また、歯科衛生士学校や歯学部の子学生の障害者歯科入門書として気軽に読んでいただければ幸いです。